学校番号	２０５

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「深進数学Ⅰ　改訂版」　（啓林館）						
副教材等	グラスプ　Grasp　改訂版　数学Ⅰ＋Ａ（啓林館） 短期完成　データの分析ノート（数研出版） チェックノート数学Ⅰ＋Ａ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では自ら考え、周りの人と協働して学習を進めます。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・授業用ノート・問題集用ノートの２冊を用意してください。
・問題集をまず自分で解いてみましょう。問題を解く力を養うには、「自分で考える時間をなるべく多くする」ことと、「自分の答案を振り返る」ことが大切です。ただ答えを求めるだけでなく、途中式やグラフ、考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・定期考査における課題は範囲がとても広く大変です。授業ごとに課題をこなしていくなどして計画的に学習を進めてください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】・数と式，２次関数，集合と命題，図形と計量，データの分析について，概念を理解し，基礎的な知識の習得と数学的処理技能の習熟をめざす。
【思考力、判断力、表現力】・数と式，２次関数，集合と命題，図形と計量，データの分析について，数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けることをめざす。
【学びに向かう力、人間性等】・数と式，２次関数，集合と命題，図形と計量，データの分析について，事象を数学的に考察したり多面的に捉える能力，習得した知識，習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学的な活動を通して，数と式，２次関数，集合と命題，図形と計量，及びデータの分析における数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け，思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や，数学的な表現を用いて事象を解決したり，過程や結果を考察し判断したりすることができる。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析を通して数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章 数と式	第１節　多項式 1　多項式とその加法，減法 2　多項式の乗法 3　因数分解	a:乗法公式、因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単に帰着できることを理解するとともに、式を目的に応じて変形することができる。 b:学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に考察することができる。 c:解法を考える中で、流れを分類し判断できるようになる。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 観察
		第２節　実　数 1　実　数 2　根号を含む式の計算	a:数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と１対１に対応していることを理解するとともに、簡単な無理数の計算ができる。 b:数の大小関係や展開の中で、順番やまとめる工夫ができより簡単に計算できるようになる。 c:数の体系に興味を持てるようになる。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 観察
		第３節　１次不等式 1　１次不等式 2　絶対値を含む方程式・不等式	a:１次不等式の解を求めることができる。 b:不等式の理解を深め，式を多面的に捉えて問題を考察することができる。 c:日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、１次不等式を問題解決に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 振返りシート 考査やり直し 観察
	第2章 2次関数	第１節　関数とグラフ 1　関　数 2　２次関数のグラフ 3　２次関数の決定	a:二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解しており、平行移動を利用して二次関数のグラフを描くことができる。 b:二次関数の式とグラフについて、コンピュータなどの情報機器を用いて描くなどして、多面的に考察することができる。 c:二次関数とそのグラフの性質や特徴について関心をもち、それらを二次関数の考察に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 観察

2学期	第2章 2次関数	第２節　２次関数の最大・最小 1　２次関数の最大・最小 2　２次関数の最大・最小の利用	a:二次関数のグラフと関数の値の変化における基本的な概念を理解し、最大値や最小値、二次方程式・二次不等式の解を求めることができる。 b:日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決し考察することができる。 c:　二次関数とそのグラフを用いることの有用性を認識し、値の変化や二次方程式・二次不等式の考察に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 振返りシート 考査やり直し 観察
		第３節　２ 次関数と方程式・不等式 1　２次方程式 2　２次関数のグラフと x 軸の共有点 3　グラフと２次不等式 4　２次不等式の利用	a:　因数分解や解の公式等を利用して解を求めることができる。 b:　グラフや判別式を利用して、求める解との状態が理解できるようになる。 c:グラフと解の関係を移動させたりして、視覚的にも理解しようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 観察
	第3章 集合と命題	第１節　集合 1　集　合 第２節　命題と証明 1　命題と集合 2　逆・裏・対偶	a:集合と命題に関する基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 b:ベン図などを用いて集合の考えを論理的に考察し、簡単な命題の証明について考察することができる。 c:日常の中で集合の考えを用いて何か決断をしようとするようになる。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 振返りシート 考査やり直し 観察
	第4章 図形と計量	第１節　鋭角の三角比 1　正弦・余弦・正接 2　三角比の相互関係	a:鋭角の三角比の意味と相互関係を理解し、他の三角比の値を求めることができる。 b:図形の構成要素間の関係を理解し、三角比を用いて表現するとともに、三角比の性質や相互関係を考察することができる。 c:三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 観察

3学期	第4章 図形と計量	第２節　三角比の拡張 1　0°≦θ≦180°の範囲にある角θの三角比 2　三角比の相互関係	a: 鋭角の三角比から90度を超える三角比にも同様に求めることができる。 b:三角比の負の数値があることや対応する角が２つある場合があるなどが理解できる。 c: 直角三角形を見つけ出し、関係が使えないか考察しようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 振返りシート 考査やり直し 観察
		第３節　正弦定理と余弦定理 1　正弦定理 2　余弦定理 3　正弦定理と余弦定理の利用	a:正弦定理、余弦定理を理解し、それを用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。 b:図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決し、考察することができる。 c:正弦定理や余弦定理の有用性を認識し、わかっていない辺や角度をどう求めようか考えようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 観察
		4　図形の面積 5　空間図形の計量	a: 正弦定理や余弦定理を利用して、未知の辺の長さや角度を求めることができる。 b: 面積や体積を求めるために求める必要のある辺や角度を考え、問題を解決できる。 c: 図形を空間的にとらえて、そこから平面的にとらえて考えようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 観察
	第5章 データの分析	第１節　データの整理と分析 1　度数分布表とヒストグラム 2　データにおける代表値 3　データの散らばりと四分位数 4　分散と標準偏差 第２節　データの相関 1　データの相関と散布図 2　相関係数 3　分割表 第３節　データの検証 1　仮説検定の考え方	a:データの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、分散及び標準偏差などの知識を身に付けている。散布図を描く、相関係数を求めるなどの技能を身に付けており、それらの意味を理解している。具体的な事象において、仮説検定の考え方を理解することができる。 b:散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。主張の妥当性について、実験などを通して判断し、批判的に考察することができる。 c:分散及び標準偏差などを用いてデータの傾向を把握し、事象の考察に活用しようとしている。散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	小テスト レポート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度